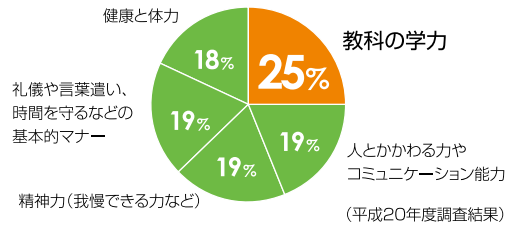




宮城県仙台市では市内の全中学校で3日以上職場体験を実施しています。仙台市教育委員会が職場体験活動に参加した生徒に対して、「職場体験を経てもっと身に付けたい能力」について意識調査を実施したところ、「教科の学力」が2年連続で最も多く挙げられました。職場体験は、学ぶ意義の認識を高め、学習意欲を向上させる上でも有効な教育活動であると言えます。

Q. 今回の職場体験活動を通し、自分がこれからもっと身に付けなければならない力や能力は次のどれだと考えましたか。最もあてはまるものをひとつ選び答えなさい。

- (1) 教科の学力
- (2) 健康と体力
- (3) 精神力(我慢できる力など)
- (4) 礼儀や言葉遣い、時間を守るなどの基本的マナー
- (5) 人とかかわる力やコミュニケーション能力
- (6) 特になかった
- (7) その他



をしっかり見守り、かかわろう



Point

保護者や体験先と連携し、生徒をしっかり見守り、かかわることが重要です。

そのためには、

体験先の方々に趣旨や意義を伝え、生徒への接し方、体験のポイントなど、共通理解と情報共有が肝要です。教師は、体験先を訪問し、生徒の変化を観察し、不安なことや困ったこと等を聞くなど、見守り、励ますことが大切です。

について考えることができるよう、キャリア発達の支援の視点から、3年間を見通して、系統的に事前学習・事後学習を実施していくことが重要です。詳しくは P15 Q5 参照

直後の指導 例) 中学校2年生

職場体験活動を振り返り、その意義を考え、学びを共有する

取組内容例

- 職場体験ノート、記録等のまとめ
- 生徒・保護者・体験先へのアンケート等による多様な評価
- 礼状の作成と事後訪問
- 職場体験報告発表会

Point

体験から学んだことを文章にまとめたり、発表し合ったりすることで、一人一人に働くことや学ぶことの意義を考えさせるとともに、体験や学びを生徒間で共有化することが大切です。

事後学習 例) 中学校3年生

職場体験活動の経験をもとに学習意欲を高め、将来の進路に向けての主体的な学習を進めながら、自分の進路を考え選択していく

取組内容例

- 適性や関心などを生かして進路を考えよう
 - ・ 中学校卒業後の進路の選択・決定
 - ・ 職業生活を考えた将来設計
- 主体的な進路選択への支援

Point

自分なりの将来像を実現するために何をすべきかなど、職場体験活動での学びを自分の将来に向けての学習の意欲付けや進路決定に生かしていくことが重要です。

総合的な学習の時間を生かそう

- 総合的な学習の時間における探究的な学習の一環として、職場体験活動を位置付けることは、3年間を見通した系統的・発展的なキャリア教育実践の有効な方策のひとつです。
- 生徒が自ら職業や自己の将来にかかわる課題を設定し、自らの力で解決に取り組み、その結果として生徒一人一人が自己の生き方を真剣に考える学習活動が展開されることが求められます。



改めて、仕事の大変さや厳しさが分かりました。そして、仕事をすることが自分の喜びになることに気付くことができました。これから、自分に与えられた仕事に一生懸命取り組みたいと思います。(体験先:菓子製造販売店)



勤労観・職業観の深まり

人とかかわり、社会の厳しさを改めて感じました。自分の就きたい職業を見つけ、それを実現するためには、勉強をしっかりやること、自分の行動に責任を持つことが大切だと実感しました。(体験先:美容院)



生活や学習の基盤づくり